

事務事業名		綾里診療所運営事業		<input checked="" type="checkbox"/> 実施計画掲載事業	<input type="checkbox"/> 総合戦略掲載事業
政策体系	政策名	0 2 安心が確保されたまちづくりの推進		事業期間	
	施策名	0 8 生涯にわたる健康づくりの推進		区分	
	基本事業名	0 2 地域医療の充実		単年度繰返	
根拠法令		国民健康保険法第82条、国民健康保険条例第5条、国民健康保険診療所設置条例		※期間欄に開始年度を記入	
所属	部課名	市民生活部国保医療課		【開始年度】	
	課長名	佐々木 直央		平成13 年度～	
	係名	越喜来診療所	電話	0192-44-2103	
	担当者	中嶋 聖志	内線	-	
事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)				全体計画(※期間限定複数年度のみ)	
地域住民の医療の確保と健康の保持増進を目的とする事業。 主な業務は、診療業務(火・木曜日9:00～12:00) 事業費の内容は、医薬材料費(薬剤等)、施設維持管理費(光熱水費、警備委託等)、医療事務業務委託費などがある。				総投入量(千円)	
				事業費	0
				人件費	0
				トータルコスト(A)+(B)	0

1 現状把握の部(DO)

(1) 事務事業の目的と指標

① 手段(主な活動)		⑤ 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	
前年度実績(前年度に行った主な活動)		名称	
疾病患者に対する診療、指導(年間)		ア	診療日数
			日
今年度計画(今年度に計画している主な活動)		イ	往診・訪問診療件数
前年度と同じ		ウ	
			件
② 対象(誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等		⑥ 対象指標(対象の大きさを表す指標)	
主に綾里地区の住民		名称	
		カ	行政区内人口
			人
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)		キ	
病気を治療する。 病気を予防する。		ク	
		⑦ 成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)	
		名称	
④ 結果(基本事業の意図:上位の基本事業にどのように貢献するのか)		サ	延べ患者数
早期に適切な医療が受けられ、地区住民の健康増進が図られる。		シ	健康であると感じている人の割合
		ス	
			人
			%

(2) 総事業費・指標等の推移

		単位	2年度(実績)	3年度(実績)	4年度(実績)	5年度(実績)	6年度(目標)	7年度(目標)
投入量	事業費	国庫支出金	千円	0	0	0	0	0
		都道府県支出金	千円	0	0	0	0	0
		地方債	千円	0	0	0	0	0
		その他	千円	9,939	2,505	5,724	7,186	7,186
		一般財源	千円	3,641	10,391	7,289	4,371	4,371
	事業費計(A)		千円	13,580	12,896	13,013	11,557	11,557
	人件費	正規職員従事人数	人	3	3	4	4	4
		延べ業務時間	時間	1,800	1,800	1,900	1,900	1,900
		人件費計(B)	千円	7,200	7,200	7,600	7,600	7,600
		トータルコスト(A)+(B)		千円	20,780	20,096	20,613	19,157
⑤活動指標								
	ア	日	94	99	95	100	100	
	イ	件	1	1	0	0	0	
	ウ							
⑥対象指標								
	カ	人	2,323	2,247	2,178	2,114	2,114	
	キ							
	ク							
⑦成果指標								
	サ	人	732	839	893	859	859	
	シ	%	54.9	57.7	57.6	58.5	58.5	
	ス							

事務事業ID	0305	事務事業名	綾里診療所運営事業
--------	------	-------	-----------

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等	
① この事務事業を開始したきっかけは何か？いつ頃どんな経緯で開始されたのか？	地域医療の確保と健康の保持増進を目的とし、昭和38年8月から三陸村国民健康保険綾里病院として開設された。その後、昭和42年4月から町制施行により三陸町国民健康保険綾里病院と改称。平成元年4月から病院を廃止し診療所として開設。平成13年11月15日、大船渡市との合併により大船渡市国民健康保険綾里診療所と改称されている。
② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)は、開始時期あるいは前期基本計画策定時と比べてどう変わったのか？	開設当初は病院(病床36床)であったが、入院患者の減少等により平成元年4月から診療所(病床19床)とし、また、大船渡市との合併時には、無床化。患者数は、年々減少傾向であったが、平成18年度以降増加傾向となり、近年はほぼ横ばいで推移している。 吉浜診療所の医師が綾里診療所も兼務している状況であったが、平成28年9月に常勤医師が退職してからは、近隣の県立病院から医師派遣を受け診療を継続した。その後、平成30年1月より吉浜診療所へ常勤医師を招聘し、従前と同様に綾里診療所兼務とした。 令和2年4月に診療体制の変更に伴い、内科診療を行っている。
③ この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？	院外処方に対応できる薬局が近隣にないため、院内処方を求める声がある。

2 評価の部(SEE) * 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 結びついている	▽ 理由・内容 地域の医療ニーズに応えるべくこの事務事業を推進し、成果(病気の治療)をあげることで、市民一人ひとりの健康づくりの一環として重要な役割を果たしていることから政策体系と結びつく。
	② 公共関与の妥当性	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である	▽ 理由・内容 ・三陸地区はほかの医療機関(開業医等)の進出が困難なことから、市が実施主体とならなければ地域住民の医療の確保と健康の保持増進を図ることが難しいことから、関与することは妥当である。 ・道路整備が進んでいるが、いわゆる交通弱者である高齢者と子供が安心して受けられる医療の確保が必要である。
	③ 対象・意図の妥当性	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 適切である	▽ 理由・内容 綾里地域において唯一の医療機関であり、市が関与することが妥当である。
有効性 評価	④ 成果の向上余地	<input type="checkbox"/> 向上余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がない	▽ 理由・内容 患者が求める医療の質を確保できれば、利用が増える可能性はあるが、医師の確保が難しいため、吉浜診療所と綾里診療所を医師が兼務している。今の体制が現状として最も効率的と思われる、現時点でこれ以上の見直しの余地はないと思われる。
	⑤ 廃止・休止の成果への影響	<input type="checkbox"/> 影響がない <input checked="" type="checkbox"/> 影響がある	▽ 理由・内容 患者の大半は高齢者であり、移動手段の確保等の問題から、市中心部の医療機関での受診は難しく、また、三陸地区は地理的問題等から、開業医等の進出は困難と思われる、診療所が廃止となった場合は医療空白地域になることが懸念され、地区住民の健康維持増進の実現が困難になるおそれがあり、事業を廃止・休止することはできない。
効率性 評価	⑥ 事業費の削減余地	<input type="checkbox"/> 削減余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない	▽ 理由・内容 平成28年10月から院外処方に移行し、薬剤費を削減することができた。これ以外の経常経費も既に削減する努力をしており、更なる削減は難しい。
	⑦ 人件費(延べ業務時間)の削減余地	<input type="checkbox"/> 削減余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない	▽ 理由・内容 現在の業務所要時間が最低限の所要時間である。所要時間を削減すると、診療時間に影響を及ぼすことになり、サービスの低下を招く。医療業務は専門的知識・資格が必要であり、また、医療事故等の危険・責任もあることから、臨時職員での対応業務は難しい。
公平性 評価	⑧ 受益機会・費用負担の適正化余地	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である	▽ 理由・内容 患者窓口負担の割合が、国で定めた診療報酬で全国均一で定められている。

3 今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(PLAN)

(1) 改革改善の方向性	(2) 改革・改善による期待成果	(3) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策又は特記事項等																					
1 現状維持	<table border="1"> <tr> <td colspan="2" rowspan="2"></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td>●</td> <td>×</td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		●	×	低下		×	×	当面、現状維持とするものの、少子高齢化の進展や人口に減少に伴い、患者数は年々減少傾向にあることから、医療従事者の人材確保を含めて、安定した診療所運営により、住民の誰もが健康かつ安心して暮らすことができるよう、地域医療を市内全体で俯瞰しながら、診療所の在り方についても、検討する時期となっている。
				コスト																			
		削減	維持	増加																			
成果	向上																						
	維持		●	×																			
	低下		×	×																			
※(1)改革改善を実施した場合に期待できる成果について該当欄に「●」を記入。 (現状維持の場合、コスト及び成果は「維持」) (終了・廃止・休止の場合は記入不要)																							

4 課長等意見

(1) 今後の方向性	(2) 全体総括・今後の改革改善の内容
1 現状維持	現状維持とするが、医療従事者の人材確保を含めて、将来にわたり住民の健康が維持されるよう診療所の経営改革が必要な時期にあると捉え、今後、外部の意見も取り入れながら、診療所の在り方について早期に検討する。